

◆家庭教育支援フォーラム◆

村山地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 テーマ 「怒りをコントロールして人生をもっと楽しく！
～今日から始まるアンガーマネジメント～」
- 2 期日・会場 令和5年5月10日（水） 村山総合支庁西村山地域振興局講堂
- 3 対象者 山形県家庭教育アドバイザー、各小中学校教職員、
市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、
図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、
市町児童福祉部局担当者、子育て支援センター職員、幼稚園・認定
こども園・保育所職員、一般 等（参加者45名）
- 4 内 容 講師（県家庭教育アドバイザー 須藤 好子 氏）
グループワークを交えた講座（90分）

- ・怒ることのデメリット・メリット
- ・アンガーマネジメントとは
- ・私たちが怒らせるもの
- ・怒りの連鎖を断ち切ろう



5 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・今後も参加していきたいです。グループワークをしながらの形式だったので、参加しやすく充実した研修となりました。
- ・とても楽しい充実した講座でした。自分の中の意識を変えて、怒りと上手に付き合っていけるようになりたいと思いました。また、今日学んだことを仕事の中でも生かしていきたいと思います。先生のお話がとても楽しく、興味が高まるような内容でした。
- ・様々な業種の方々がアンガーマネジメントでグループワークをしたことで、自分が思っていたことを共有できたり視野を広げたりすることができました。自分だけで参加するのではなく、家族などで参加できるとお互いにいい影響がありそうだと思います。
- ・先生のお話がとてもおだやかで、また具体的で分かりやすかったです。自分のふだん怒っていることなど、よくよく考えればちっぽけなことだと感じました。
- ・怒りをコントロールするためには、まず自分のストレスをコントロールすることが必要だと思います。ストレスマネジメントと一緒に子ども、保護者に伝えてみようと思います。また、数値や言葉にしてみると、自分の怒りは小さなものだと思うことができました。怒りの温度計等保健室でも活用できそうだと思います。

村山地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 テーマ 「怒りをコントロールして人生をもっと楽しく！
思いが伝わる叱り方で円滑な人間関係～」
- 2 期日・会場 令和5年10月18日(水) 寒河江市中央公民館 中公ホール
- 3 対象者 山形県家庭教育アドバイザー、各小中学校教職員、
市町教育委員会家庭教育支援担当者及び読書活動・図書館担当者、
村山総合支庁子ども家庭支援課担当者、市町児童福祉部局担当者、
図書館職員、読み聞かせサークル及び読み聞かせボランティア、
保育施設園職員、一般等(参加者43名)
- 4 内容 講師(県家庭教育アドバイザー 須藤 好子氏)
グループワークを交えた講座(90分)

- ・アンガーマネジメントとは
- ・上手な叱り方を身につける
- ・普段からできる叱るトレーニング
- ・さらに知ってほしいアンガーマネジメント



5 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- ・叱り方について、伝える声のトーン、場の雰囲気を変えて実行してみたいと思います。トライ・アンド・エラー、トライ・アンド・エラーをくり返し、伝え方上手な人間になれるよう努力していきたいと思います。今まで気づけなかったことがたくさんあり、明日からさっそく実践していきたいと思います。
- ・学んだことをすぐに現場で生かせる内容でよかったと思います。グループワークの使い方も今回とても有意義でした。自分で考えながら他の人の意見を聞くことにより、考えが深まり、また違う視点で考えることもできました。実体験の話はやはりわかりやすく良かったです。
- ・初めての参加で学ぶことがたくさんありました。グループでの話し合いもとても楽しかったです。先生のお話もとても楽しく、時間があっという間でした。これから先、よりよい人生を過ごすため、アンガーマネジメントを心におき、自分も相手も気持ちの良い職場・家庭環境を作っていきたいと思います。
- ・初めて参加しましたが、自分の普段の姿を改めて客観的に見ることができました。自分の信念をもつことも大切ですが、相手に寄り添うことも忘れず頑張っていきたいと思いました。
- ・2回目の参加でしたが、毎回納得と「次はこうしてみよう」という意欲がわいてきました。

最上地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和5年6月3日(土) 新庄市エコロジーガーデン
- 2 参加対象 市町村教育委員会、地区PTA協議会母親委員及び保護者、小中義務教育学校教員、保育士、子育て支援者等 56名
- 3 内 容

- (1) 講演 演題「子どもの心に響く励ましの言葉がけ～ペップトーク～」
講師 小野 弘志 氏(一般財団法人日本ペップトーク普及協会認定講師)

【要旨】

- ・ペップトークとは
- ・スポーツ選手を励ますのに指導者やリーダーが試合前に使う「短い激励のメッセージ」＝「前向きな背中の一押し」のこと
- ・短くて、わかりやすく、肯定的な言葉を使った、魂をゆさぶる、人をその気にさせる
- ・ペップトークの特徴
- ・現在の状況を受け入れる
- ・肯定的な言葉を選ぶ
- ・短くわかりやすく
- ・背中の一押し
- ・ネガティブな表現をポジティブな表現に変換する
- ・思い込みによる自己形成(ネガティブな発言はマイナス思考になる)

- (2) 感想交流(グループワーク)

【講演の様子】



【感想交流・情報交換の様子】



4 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- ・ポジティブな言葉をたくさん使っていて良かったです。
- ・先生のおはなしに元気をいただきました。子どもに対してはプラスの声かけを意識してきましたが、周囲の大人、そして自分自身に対しても意識してみたいと思いました。
- ・完璧をめざさなくてもよいという言葉が響きました。
- ・子どもの自己肯定感を伸ばすには、親も自己肯定感を高めることが必要だと感じました。
- ・子どもにとって一番身近な家族がきちんと受け止めてあげることで、自分に自信をもって成長できるのかなと思いました。
- ・まず自分が楽しんで、わくわくしたほうが前に進めると思いました。こうしなければならぬと考えがちな時に、ポジティブに自分をペップトークで励まして、さらに周りにもポジティブを分けられたらいいなと思いました。

最上地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和5年9月7日（木） 新庄市エコロジーガーデン
- 2 参加対象 市町村教育委員会・福祉主管課職員、幼稚園教諭、保育士、子育て支援者（読み聞かせサークル会員）等 17名
- 3 内 容

(1) 講演とワークショップ

演題「子どもと一緒に楽しく体を動かすアイデア」

講師 伊藤 淳子 氏（山形県家庭教育アドバイザー）

【要旨】

- ・「まねっこヨガ」の体験
- ・子どもと一緒にやりたい体ほぐし、ストレッチの体験
- ・「幼児共育ふれあい広場」などでの実践事例の紹介

(2) 感想交流・情報交換



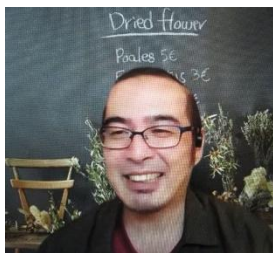
4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・親子の触れ合いは大事なのだと改めて感じました。
- ・遊びの中で体幹が鍛えられるので、一緒に遊びながら親も子も鍛えていきたいと思いました。
- ・講演だけでなく、今日のような体を使った講座も重要であることを改めて認識しました。楽しみながら何かをすることは、すべての講座に通じるものがあります。
- ・子どもの運動遊びの時のポイント（気を付けること）が分かってよかったです。実際に体を動かして楽しかったです。
- ・親子で楽しく体を動かすアイデアで、心も体もリフレッシュし、ウェルビーイングにもつながると思いました。

置賜地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和5年9月28日(木) 置賜総合支庁西置賜地域振興局 講堂
(オンラインと参集のハイブリット開催)
- 2 参加対象 家庭教育アドバイザー、各市町家庭教育支援担当者、幼稚園・保育園・こども園等関係者、養護教諭、PTA関係者、子育て支援担当者、適応教室職員(参加者25名)
- 3 内 容
講演・感想交流「子どものメディアのルールづくりと家族のかかわり方
～人生を豊かに、楽しく生きていくための使い方～」
講師 増田 貴久 氏(精神保健福祉士、公認心理師、ASK 認定依存症予防教育アドバイザー)

- 1 こどものメディア利用状況
 - ・ほぼ100%の子ども(0歳～9歳)がインターネットに触れている状況
 - ・中学生のスマホ利用は、47.3%(H28)→80.8%(R3)
 - 2 ネットやゲームは子どもたちの第3の居場所
 - ・「遊び場としての居場所」「学び場としての居場所」
 - ・「浮かぶ場、漂う場としての居場所」
 - 3 IT後進国からの脱却を託されている子供たち
 - ・文明が後戻りすることはない。日本は海外に比べITが30年遅れている。
 - 4 子どもたちが安全にネットの世界を歩けるようにするには?
 - ・性教育とネットリテラシー教育
 - 危ないからと成人するまで遠ざけるのは大丈夫?
 - 危ないからこそ、しっかり教えて話し合うことが大事
 - 5 思春期を見据えたルール作り
 - ・「約束守らなかったらスマホ取り上げるよ!!」は中学生から通じない
 - ・「何時間より何時まで」「継続1時間で30分オフ(中断の練習)」等
 - 6 ゲーム依存症について
 - ・ゲーム依存は研究中
- 終わりに
- ・伴走型支援の導入を



4 参加者のアンケートから(記述抜粋)

- ・メディアの使用状況が年々変化しており、小さい子供が当たり前に触れる時代だからこそ、大人がメディアについてしっかりと知識を持たないといけないと感じました。
- ・子どもに応じて守れるルールを作ること。ルールを守れたことを評価することで子どもの自尊心が高まり、ルールを守る意識が育つことが新しい発見でした。
- ・勉強は仕事、ゲームはリラックスという考え方は学ぶことが多かったです。

庄内地区「家庭教育支援フォーラム」①

- 1 期日・会場 令和5年6月9日（金）・三川町子育て交流施設テオトル
- 2 参加対象 保育士、幼稚園・中学校教諭、養護教諭、社会教育関係職員、家庭教育アドバイザー、市町家庭教育担当者等（参加者54名）

3 内 容

- (1) テーマ：「子どもの育ちと学びの環境を考える」
- (2) 講 師： 矢生 秀仁 氏（こども環境デザイン研究所所長、絵本作家）

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. こどもをとりまく環境の変化 ～余白の少ないこどもたち～2. こどもたちがのびのび育つ環境づくり3. まとめ ～教育のゴールとは～ |
|---|



4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・矢生先生の熱意ある講演の最後に「教育は幸せになるためにある」のまとめに改めて納得しました。子どもの見方をもう一度見直してみたいと思いましたし、我が子の育ちを振り返るお話でした。
- ・大人の関わりが子どもの育ちにつながることを改めて感じました。スマホに頼りがちになってしまう世の中だが、子どもへの語りかけを大切にしていきたいです。大人になっても「しあわせ」と思えるような子どもたちを育てていきたいです。
- ・保育園で勤務している中で、「指導」してしまう自分がいると振り返りました。できる範囲で、ゆとりある関わりを大切にしていきたいと思いました。
- ・子どもたちがのびのび育つために十分に楽しむことができ、満足できる遊びの環境づくりというものを大切に、仕事や子育てをしていきたいと思いました。



庄内地区「家庭教育支援フォーラム」②

- 1 期日・会場 令和5年8月31日（木）・庄内総合支庁
- 2 参加対象 保育士、幼稚園・小中学校教諭、社会教育関係職員、養護教諭、家庭教育アドバイザー、市町家庭教育担当者等（参加者25名）

3 内 容

- (1) テーマ：「助けて…心の声が聞こえますか？」
～悩み相談から見えたわたしたちにできること」
- (2) 講 師： 後藤 敬子 氏（ごっと助産院院長 思春期保健相談士、助産師、
県家庭教育アドバイザー）

1. 相談を始めたきっかけと相談方法
2. 変わる相談内容
3. 学校、家庭、家族、仕事、職場の相談あるある
4. 妊娠・避妊、デートDV等についての紹介
5. グループワーク
 - (1) 講師が実際に受けた相談内容を読む
 - (2) 相談する役と相談される役になり、ロールプレイ
 - (3) 相談者のメッセージ・心の声（何に悩み、どうしたいと思っているか）を想像し、考えてグループ共有・全体共有
6. まとめ

4 参加者のアンケートから（記述抜粋）

- ・相談される機会には、ぜひこの研修で学んだことを生かしていきたいと思います。
- ・5つの「あ（愛する・焦らない・慌てない・あきらめない・安心）」、相談時の留意点等、とても勉強になりました。子どもとの会話時等、様々な場面で参考にしたいと思います。
- ・相談内容が変化していることが分かりました。相談時の留意点が細かく、分かりやすくまとめてくださったので、とても参考になりました。仕事だけでなく、自分の子育てにも役立てられそうです。我が家にも「きれいな虹が出るといいな」と思いました。
- ・後藤先生のたくさんの経験談を聞くことができました。話を聞き出したり、相手の心を開かせたりする技についての部分をさらに詳しく知りたくなりました。

